



日本機能性香料医学会  
日本ヘルスケアプロダクツ研究会

## 合同学術講演会

入場無料

一般の方のご参加も歓迎いたします。

2020年12月18日(金)

13:00~17:00

会場

東京都立産業貿易センター台東館  
7階ホール

# ヘルスケアの未来を創る

会長

神保太樹

株式会社令和メテikalリサーチ  
医学研究所 所長

実行委員長

中井さち子

藤田医科大学医学部 客員教授

## 講演プログラム

13:00～13:10

会長挨拶

13:10～13:30

陰陽五行説の五色と五香の謎に迫る。

芦屋こころとからだのクリニック 春田博之

13:30～13:40

新型コロナウイルスによる嗅覚障害がゼラニウム(精油)を用いた嗅覚トレーニングで速やかに改善した1症例

芦屋こころとからだのクリニック 春田博之

13:50～14:30

コロナ禍におけるNMN製剤による老化制御の有用性

愛知医科大学先制・統合医療包括センター  
教授兼センター部長  
福沢 嘉孝

14:40～15:30

複数種鉱石粉末物"PROUSION(プラウシオン)®"含有マスクの末梢血液循環 及び ストレスに対する効果についての検討

NPO法人日本健康事業促進協会理事長 橋本政和  
山陽学園大学大学院教授 村田幸治

15:40～16:20

介護におけるアロマセラピーの活用と展望

一般社団法人エンカレッジ介護アロマケア協会 理事長  
坂内 美由紀

16:30～16:50

ヘルスケアプロダクトとしての機能性香料

株式会社令和メディカルリサーチ医学研究所 所長  
トリノ大学医学部客員教授  
神保 太樹

16:50～17:00

閉会挨拶

### 注意事項

- ・ 講演スライドの撮影等はお断りしております。
- ・ 講演内容の一部は、学会会員向けコンテンツとして後日公開予定です。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、一部の講演については、ネットワークを介して実施しています。
- ・ 抄録集等は右のQRコードからダウンロード可能です。



## 講演資料

新型コロナウイルスによる嗅覚障害が、ゼラニウム（精油）を用いた  
嗅覚トレーニングで速やかに改善した1症例

春田博之  
芦屋こころとからだのクリニック

2019年11月頃から新型コロナウイルス（COVID-19）の流行が世界中に広まり、現在もなおその渦中にあります。そんな中で新型コロナウイルス（COVID-19）の初期症状として急性嗅覚障害が指摘されるようになりました。今回は新型コロナウイルス（COVID-19）の感染により急性嗅覚障害を発症し発症後、約1ヶ月を経ても改善しない嗅覚障害がゼラニウムの精油による嗅覚トレーニングによって1週間で速やかに嗅覚障害が改善した症例を経験したので報告いたします。

一般的な感冒ウイルスの罹患による感冒後嗅覚障害の原因にはウイルスによる神経組織の障害の他に、ウイルスによる免疫応答が局所に炎症を引き起こし、二次的に神経障害が起きるといったメカニズムも想定されていますが、ゼラニウムの主要な芳香成分であるCitoronellolとGeraniolには新型コロナウイルス（COVID-19）の宿主細胞受容体であるアンギオテンシン変換酵素2受容体（ACE2）の阻害効果があることが報告されています。また、炎症性サイトカイン産生の増幅に関係するNF- $\kappa$ Bの阻害効果がゼラニウムオイルに有ると示唆された報告もあり、これらの働きが新型コロナウイルス（COVID-19）による嗅神経組織への直接的、二次的傷害による嗅覚障害の改善に寄与したのではないかと考えています。

陰陽五行説の五色と五香の謎に迫る。

春田博之  
芦屋こころとからだのクリニック

漢方治療の理論体系の基になっている考え方に陰陽五行説というものがあります。詳しくは知らなくても陰陽とか五行とかいう言葉はどこかで耳にされたことがあるのではないのでしょうか、一言で言えば陰陽五行とは「天地の万象を陰と陽に分ち、木火土金水の五要素の循環にその働きを見る。」（陰陽五行と日本の民俗、吉野 裕子（著）より引用）という言葉によく表されていると思います。その考えは土用の鰻、節分の豆撒きなど日本の私たちの暮らしに以外な形で根付いています。

さて、その五行ですが東洋医学では肝・心・脾・肺・腎という五臓がありこれらが人体の健康を主っていると考えられておりこの五臓には木・火・土・金・水の五元素が対応しているといわれています。またそれには五色といって青・赤・黄・白・黒の5色が対応しているといわれています。私は長年、色彩心理を活用した独自理論を基に漢方・アロマ・鍼灸などを統括した統合医療を展開しているのですが、現代感覚で見た色彩の常識からはこの五色には受け入れがたい違和感があります。木が青、火が赤はまだ良いとして、水が黒というのは非常に違和感があります。いったいこの五色というのは何なのか、相当悩みましたが、この謎を10年ほど前に解明いたしました。実はこの五色の謎を解明してみると、そこには現代の色彩学に則った法則がしっかりと存在することを発見したのです。今回はその五色の謎と本会は香りの学会でもありますので、五香の謎についても迫ってみたいと思います。



近畿大学医学部卒 神経内科  
医学博士  
芦屋こころとからだのクリニック 院長

色彩心理を軸に構築した独自理論を基にアロマ・漢方・鍼灸などによる統合医療を展開している。

# 講演資料

## コロナ禍におけるNMN製剤による老化制御の有用性

福沢嘉孝

愛知医科大学大学院医学研究科戦略的先制統合医療・健康強化推進学  
愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター

我々は、2019年10月に日本老化制御医学会を創設した。本学会の主な活動基本4項目としては、①突然死の防止、②認知症の防止、③腎臓病（CKD）の防止、④ガン発症防止である。その他として、⑤パーキンソン病等の脳疾患予防対策、⑥老人性鬱病・不安神経症等の精神疾患予防対策、⑦サルコペニア・フレイル・アンチエイジング等の未病予防対策も含まれる。これらを目標に全国の主な中核拠点に老化制御外来を設置し、『老化ストップ！（ストップ・ザ・老化！）』をスローガンに健康寿命延伸（健康長寿）を進展させる意図がある。ところが、未曾有のコロナ禍（COVID-19）が2020年初頭から勃発し、現在も感染者急増の状況に置かれている。特に、高齢層（高齢者）においては、若年層に比較して重症化リスクが高いと報告されている。このような状況下では、誰しも老化を可及的回避したいと考えていると推察される。

一般に老化による身体機能低下は、①NAD+の急激な減少、②CD38（老化促進物質）の急激な増加が原因と報告されている。既述のNMNは、投与後直ちに体内でNAD+に変換され、上述の2つの原因に対して迅速且つ有効に作動し、急速に低下したミトコンドリア機能を改善させるとも報告されている。その他、NMNは脳虚血におけるtPA誘発性出血性形質転換を改善する（マウス）、NMNはアルツハイマー病モデルラットにおいて認知症を改善でき得る（ラット）、老齢マウスにおける眼の機能・骨密度・骨髄性リンパ球組成を改善する（マウス）等の報告があり、NMNが種々老化関連の病態生理学的変化に対して有意な抗老化作用を有する結果の反映と考えられる。

そこで今回我々は老化制御外来設立の予備的検討として、医療用高純度NMN製（Rejugene：レジュジン）を内服投与中のモニター未病受検者と非投与の未病受検者の長寿遺伝子（Sirt1）活性度とを比較検討し、示唆に富む結果を得たので報告する。一方、本学会主導型観察研究の取組みの一環として、NMNを3ヶ月内服投与した2症例に関して、老化制御に関連する種々バイオマーカーを測定し、QOLに関するアンケート調査を実施し、示唆に富む結果を得たので報告する。今後は症例を更に集積し、確固たるEBMを構築したいと考えている。視聴者の皆様のご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



愛知医科大学大学院医学研究科（戦略的先制統合医療・健康強化推進学）・愛知医科大学病院先制・統合医療包括センター部長・教授（愛知医科大学病院肝胆膵内科兼務）、医学博士。ミュンヘン大学（LMU）医学部客員教授。臨床ゲノム医療学会理事、日本健康医学会理事、日本ヘルスケアプロダクツ研究会理事を務めるほか、種々学会で重責を担っている。

## 講演資料

### 複数種鉱石粉砕物"PROUSION(ブラウシオン)®"含有マスクの末梢血液循環及びストレスに対する効果についての検討

橋本政和<sup>1)</sup> 村田幸治<sup>2)</sup>

1)NPO法人 日本健康事業促進協会 2)山陽学園大学 大学院

【目的】感染症に対するマスク使用では、フェイスマスクをつけた群は飛沫とエアロゾル中のコロナウイルスを減少させ、飛沫中のインフルエンザウイルスを減少させている。またマスクをして自身の表情を人の目に触らさずにリラックスすれば、ストレスを幾分低減すると思われる。個々のストレス耐性を超えた過剰なストレスの蓄積、慢性化は、慢性疲労症候群、繊維筋痛症、過敏性腸症候群、心的外傷後ストレス障害などの機能性身体症候群のみならず、脳卒中、高血圧、心臓病などの生活習慣病とされる多くの病気を引き起こすトリガーになっている。現代のストレス社会において如何にストレスをコントロールするかは、社会生活を全うする為の必須要件である。そこで複数種の鉱石粉砕物であるブラウシオンを含浸させたフェイスマスクにストレス軽減効果があるかを検討する為に、末梢血流の変化を測定する事としたが、生体に対するブラウシオンの影響の整合性が有り得るのかを確認する為に、唾液 $\alpha$ -amylase 活性(sAMY)も同時に測定した。

【方法】被験者：年齢、性別を問わず、慢性疾患に罹患しておらず、また測定日において急性感染症への罹患等がなく健康状態が良好な者で、研究参加に同意の得られた者20名。しかし測定時に再確認し、高血圧で服薬中の者1名と、何回採取を行っても唾液摂取量が不足して測定器にエラー表示が出た者2名を除外し、解析は17名で行った。測定方法：・自律神経機能の指標として唾液アミラーゼモニター(株式会社NIPRO)でsAMY測定を行った。・末梢血流を監視、記録する為にTOKU\_Capillaro(株式会社 徳)を使用した。統計解析：・統計学的検討では、対応のあるt検定を行った。・sAMY及び末梢血流については各種論文等を参考にし、 $p<0.05$ を有意水準とした。尚、本検討の実施については、NPO法人日本健康事業促進協会 倫理審査委員会の承認を得た。【結果】ブラウシオン 非含浸マスクを①、ブラウシオン含浸マスクを②とする。[sAMY]マスク装着前と①装着10分後のsAMYの差は $-5.3/p=0.41$ で有意差は示されず、sAMYの抑制は確認されなかった。①と②装着10分後のsAMYの差は $-15.7/p=0.025$ の有意差を示し、②は有意にsAMYを抑制した。[末梢血液循環]マスク装着前と①装着10分後の平均流速の差は $-80.10/p=0.327$ で有意差は示されず、末梢血流の促進は確認されなかった。①と②装着10分後における平均流速の差は $-145.23/p=0.042$ の有意差を示し、②は有意に末梢血流を促進した。

【考察】昨今の社会環境下での過剰なストレス暴露は、脳疲労、心身疲労、メンタルダウンを誘引する大きな要因として問題になっている。それを回避する為には、職場でのメンタルヘルス対策のみならず、通勤の過程、また休日に如何にストレスオフするかは非常に重要な課題である。sAMYの測定について、呼吸によるストレス緩和効果の研究を参考にストレス軽減効果を確認した結果、深呼吸による回復期のストレス軽減比は[4.4]であったのに対し、ブラウシオン含浸マスクは[4.8]であった。この事から、非介入群をコントロール群とした場合、ブラウシオン含浸マスクの回復期にも、5分間の深呼吸によるストレス緩和効果とほぼ同等の効果ある事が推察された。今回の検討結果から、ブラウシオン含浸マスクは、緊張の緩和、ストレス軽減に十分な効果が期待できると考えられる。マスクという手軽に普段使いできるアイテムで、生活に負荷をかける事なく直接的にストレス軽減やリラクゼーション効果があることは、現在社会において、ストレス解消や疲労回復の簡易な実践法則になり得る。またブラウシオン含浸アイマスクでは、 $\alpha$ 波の増幅が確認されている。 $\alpha$ 波の増幅、優性発生は副交感神経亢進、つまりリラクゼーションの指標である。アイマスクとフェイスマスクの併用が、ストレスオフのゴールデンルールとなることを期待するものである。



橋本政和

- NPO法人 日本健康事業促進協会 理事長
- 生理学博士
- 一般社団法人健康促進・未病改善医学会運営顧問
- 一般社団法人健康促進総合研究所運営顧問
- 米国財団法人野口医学研究所倫理審査委員
- 全日本空手道連盟和道會千秋会四端塾 塾長
- 真言宗僧侶氣和院観真



村田幸治

- 山陽学院大学大学院教授
- 医学博士
- 日本医師会認定産業医
- 日本補完代替医療学会認定補完代替療法医療学識医
- 日本補完代替医療学会理事
- 一般社団法人健康促進・未病改善医学会理事

## 講演資料

### 介護におけるアロマセラピーの活用と展望

坂内 美由紀

一般社団法人エンカレッジ介護アロマケア協会

アロマセラピーを学んだ1999年当時、今よりも女性のためのものや高級感といったイメージがあったが、学びを進めていくと、正確に扱えば小さなお子様からご高齢の方まで活用できると思い、看護師でアロマセラピストの山崎美香氏に師事し、介護アロマの活動を始めました。当時は、高齢者に特化していたので高齢者アロマと呼んでいました。

介護についてはほぼ無知からスタートしましたので、現場の介護士さんたちから学んだり、セミナーや山崎氏について学びを深めていきました。

介護アロマの活動を進めていくと、介護される人はもちろん、介護する人も肉体的、精神的な支えが必要ということに気づき、どちらもアロマケアをすることとなりました。

介護アロマでは、直接肌に触れるアロマトリートメントと介護施設のアクティビティとしてのアロマレクリエーションを進めております。

アロマトリートメントは、触れてほしい箇所をお聴きし、手や足、お顔や体全体など優しくタッチしていきます。「手が喜んでいる」、「足が軽くなってフワフワする」、また「あなたみたいな人、初めて出逢った」などといったアロマケアの感想をこれまでたくさんいただきました。

アロマレクリエーションは、一般的なアロマクラフトを様々な高齢者の方ができるように工夫をしながら作品作りをしています。材料を2択など選択したり、こねる、かき回す、材料をスプーンで瓶に入れるなど楽しみながら頭や手、腕などを動かすことで刺激を与えることができ、介護スタッフやご家族などから喜ばれています。

しかし、アロマトリートメントは介護保険で使用できるマッサージと混乱をしたり、料金も安くはなかったり、結果を求められることもあり、継続することが困難なことがしばしばあります。

また、ご家族の了解のもと、介護アロマはされますが、ご本人は希望されていないなども時折見られます。

今、現在コロナ禍で介護施設でのアロマケアはほとんど中止になっていますが、遠距離介護をされている方や元気だがなかなか会えないご家族に代わって、「見守りアロマ」というサービスを展開していく予定です。私たち介護アロマセラピストだからこそ気づけることがあったりします。毎週、決められた時間に訪問し、アロマケアやお話を聴き、様子をご家族の方たちに報告をします。

そのために、日頃から私たちは学びあい、介護アロマの協会の垣根を越え、全国でいつでもどこでも必要な時に駆け付けられるよう様々な地域で介護アロマセラピストの育成に励んでおります。



一般社団法人  
エンカレッジ  
介護アロマケア協会

<https://www.encourage-kaigoaroma.com/>



1993年美容師免許取得  
1999年アイネスアロマスクール入学  
2000年アイネスアロマスクール卒業、訪問アロマセラピーmew（起業）  
2006年セラピストネットワークcure立ち上げ、主にアロマセラピストのスキルアップ講座を主宰  
2007年介護アロマスタート  
2014年NARDJPANアロマアドバイザー取得  
2018年一般社団法人エンカレッジ介護アロマケア協会設立  
2020年NARDJPANアロマインスストラクター取得中

#### アロマケアした介護施設等

歯科医院、有料老人ホーム、高齢者マンション、デイサービス、デイケア、グループホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、在宅、ショートステイ、サービス付き高齢者向け住宅

# 講演資料

## ヘルスケアプロダクトとしての機能性香料

神保 太樹  
株式会社令和メディカルリサーチ  
医学研究所所長

日本における香料の利用は、主に食品や化粧品に使われている。これまで、天然由来の精油を用いた匂いが、健康の増進や維持に役立つ可能性があるとして、さまざまなメディアで取り上げられているが、実際にアロマセラピーの一分野として、匂いを嗅ぐだけでも様々な効果がもたらされることが報告されている。

しかし、我が国においては、こうした精油や香料は、ほとんどが雑貨として扱われており、健康に関与するために用いられるにも関わらず、明確な定義はない。

一方、ヘルスケアプロダクトの分野においても、同様の歴史的経緯が見られる。最初、健康に関与するサプリメントや健康器具などは、ほとんどが法的に表示することができなかった。仮に表示することができたとしても、煩雑で高額な費用が必要とされ、情報発信を実施することが困難な時代もあった。こうした時代を経て現在では、機能性食品の表示が、一定の要件を満たせば可能となって来たことは、セルフメディケーションが推奨される我が国において大変喜ばしいことであろうと思う。

さて、精油或いはそのほかの、人体になんらかの影響を与えるような匂いについて、機能性食品のイメージが理解しやすいため、ここでは機能性香料という名称で取り上げる。日本機能性香料医学会では、機能性香料の定義を、「心身あるいは環境に変化を与えることを目的とする匂いそのもの、あるいは匂いを構成する成分」としているが、これは分かりやすく言えば、においを嗅ぐことによる人や動物への変化を目的とするものや、或いは悪臭の防止などの環境を改善するために用いられる匂いと言い換えられるだろう。

特に芳香剤などは、一度も使ったことがないという人はいないのではないだろうか。しかしこうした香料を取り扱う上ではいくつかの問題に直面せざるを得ない。例えば毒性であるが、一部の香料には吸入したり、皮膚についたりすると毒性を発揮することがあることは良く知られている。しかし、香料分野においては、いまだ医学、工学、農学のそれぞれの良いところを組み合わせた連携が十分ではなく、それ故に、未知の問題がさらに隠れている可能性もある。

この問題に拍車をかけているのは、健康のために香料を用いるにあたって、もっとも一般的な分野となったアロマセラピーである。アロマセラピーは大変優れた技術体系であるが、多くの教育において、天然香料を用いることを原則とし

ている。一方で人工香料を含む、香料についてはアロマセラピストを含んで、匂いに関わる人が教育を受ける場があまりない現状である。だが、我々の生活において活用されている匂い（芳香剤、香水、シャンプー、化粧品など）の多くが人工香料を用いており、これらの関連分野においても、今後匂いの果たす役割は大きくなると思われる。

このような理由で、今後ヘルスケアプロダクトとして香料を扱い、その機能性を健康の維持や増進に活用しようとするのであれば、機能性香料として広く研鑽するための場が必要となると考えられた。同時に、単に香料の機能性を見るだけではなく、その香料がどう暮らしに役立っていくのか、どう人を豊かにするのかについて、我々は未来を見据えて考えなくてはいけない。香料には、無限の可能性があり、様々な問題を解決できるはずである。（例えば、現在猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症においても、一部の精油などが抗ウイルス能を持っていると報告されている。）

以上を踏まえて、今回、日本ヘルスケアプロダクト研究会と日本機能性香料医学会の目標を簡単にお伝えするとともに、最近の機能性香料の面白い話題について概説する。



株式会社令和メディカルリサーチ医学研究所所長、トリノ大学医学部客員教授、愛知医科大学先制・統合医療センター研究員など。昭和大学医学部解剖学第一講座兼任講師、ドイツViadrina大学客員講師、日本アロマセラピー学会副理事長、日本総合診断医療研究会常任理事、日本長寿健康応用学会理事、日本補完代替療法学会幹事、日本健康促進医学会評議員、日本関西アロマセラピストフォーラム顧問等を歴任。

鳥取大学医学部生体制御学講座にて、アルツハイマー病を中心として認知症の治療に関する研究と、アルツハイマー病患者における嗅覚障害の出現率に関する研究を行い博士号を取得。その後昭和大学医学部顕微解剖学講座等を経て現職。

研究テーマはfMRIやfNIRS等の脳機能イメージングを用いた嗅覚機序の解明と応用、及び高齢者介護における嗅覚の利用法についてを中心に、最近ではサプリメント等のモニタリング調査なども実施している。